

平成 29 年 1 1 月 3 0 日
東北電力株式会社

女川原子力発電所 2 号炉 指摘事項に対する回答一覧表
(シーケンス選定, 炉心損傷防止)

No	分類	項目	審査 会合日	回答
1	指摘 事項	津波 PRA の評価結果から, 津波特有の事故シーケンスグループとして「防潮堤機能喪失」を選定しているが, これの有効性評価における扱いについて, 整理して提示すること。	H29. 10. 26	炉心損傷直結シーケンスとして整理するとともに, 有意な頻度又は影響度の観点から, 事故シーケンスグループとして追加することは不要であることを確認した。(資料 2 - 1 - 4 にて本日回答)
2	指摘 事項	TBP において, RCIC の実力値なども考慮して, 消防車, ディーゼル駆動消火系ポンプ等による対策を検討すること	H28. 12. 22	TBP シーケンスにおいて, 事象発生 24 時間後まで交流電源に期待せず, 低圧代替注水系(可搬型)を用いた対策の有効性を確認した。 (資料 2 - 1 - 5 に反映済, 後日回答)
3	指摘 事項	TBP シーケンスにおいて, 余裕時間を適切に見積もった評価結果を説明すること。	H29. 2. 2	現場作業の成立性の不確かさを考慮しても評価項目を満足することを確認した。 (資料 2 - 1 - 6 に反映済, 後日回答)
4	指摘 事項	全交流動力電源喪失時に逃がし安全弁の再開に失敗する事象(TBP シーケンス)において, 可搬型設備により炉心注水が可能であると評価しているが, 現場作業の成立性及び解析コードや解析条件の不確かさを考慮しても評価項目を満足するのか, 整理して提示すること。	H29. 10. 26	現場作業の成立性の不確かさ及び解析コードや解析条件の不確かさを考慮しても評価項目を満足することを確認した。 (資料 2 - 1 - 6 に反映済, 後日回答)
5	指摘 事項	SRV の排気温度計について位置づけと検知の可能性について整理すること。	H28. 7. 12	後日回答

No	分類	項目	審査 会合日	回答
i	論点	津波レベル1 PRA より抽出した事故シーケンスグループ	H29. 10. 26	内部事象PRAで想定したシーケンスグループとは別に、津波特有の事故シーケンスグループ「防潮堤機能喪失」として選定 (資料2-1-3にて本日回答)
ii	論点	全交流動力電源喪失時に逃がし安全弁開固着が重畳する事故 (TBP) 時の対策について	H29. 10. 26	TBPシーケンスにおいて、事象発生24時間後まで交流電源に期待せず、低圧代替注水系(可搬型)を用いた対策の有効性を確認した。 (資料2-1-5に反映済、後日回答)
iii	論点	中小破断LOCA時の破断面積について	H29. 10. 26	後日回答
iv	論点	コリウムシールドの設置について	H29. 10. 26	後日回答
v	論点	格納容器下部への初期水張り水位の適切性について	H29. 10. 26	後日回答
vi	論点	シェルアタックを除外する理由について	H29. 10. 26	後日回答